令和４年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立南第三小学校

１．本年度の全国学力・学習調査結果の学力の概要について

・対全国比の平均正答率は、どの教科も低くなっています。
・無解答率が、国語・算数・理科ともに低いことから、問題に対してあきらめずにねばり強く、答えを書こうとしていることがわかります。
・国語については、特に「書くこと」、「読むこと」に課題が見られました。問題を正確に読み取る力に課題があるため、音読活動を中心とし、語彙力を高め、正確に深く読み取る力を高める必要性があると考えています。
・算数については、特に「データの活用」の領域について課題が見られました。「変化と関係」の領域については、昨年度まで本校で取り組んできた「読解力の育成と文章題の解決の方法」について重点を置いた成果が見られました。
・理科については、特に「エネルギー」、「地球」を柱とする領域について課題が見られました。実験器具について問う問題は良好な結果でした。

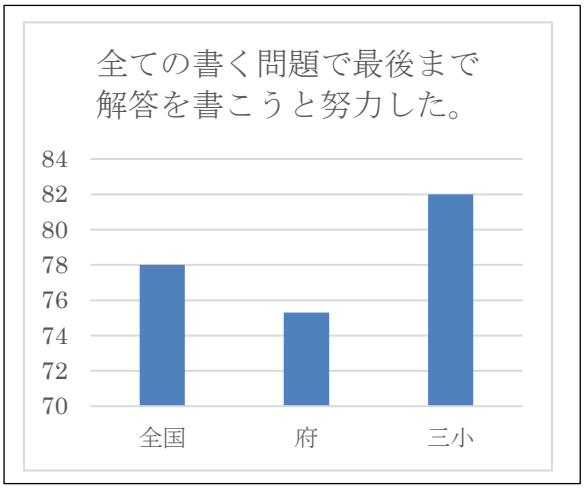
２．各教科における成果と課題について

	成　果	課　題
国語	・記述の問題で無解答率が低くなっていて、あきらめずに自分が考えた答えを書こうとすることができています。	・問題文の内容を正確に読み取れていない割合が多く、読解力や語彙力に課題が見られます。 ・長い問題文を読むことに慣れておらず、最後まで根気よく読んで、必要な情報だけを取り出して考える力に課題が見られます。
算数	・無解答率が低く、あきらめずに最後まで取り組み、解答することができています。 ・割合の「比べられる量」、「割合」の問題の平均正答率が高くなっています。	・問題文を読み、何を問うているか正確につかむことに課題があります。 ・たくさんある情報から、必要な情報を選んで考えることに課題が見られます。また、一つの問いの中に複数の単元の内容が含まれている問題や、何ページにもわたる問題を解くことにも課題が見られます。
理科	・理科用語や実験用具の名称、使い方についての問題の正答率が高くなっています。普段から実施している実験や観察など体験的な学習、まとめの音読が理解と定着につながっていると考えられます。	・「問題に対するまとめ」を検証する力。また、自分の考えをもって表現する力に課題が見られます。 ・問題の本質を読み取る読解力や資料や図から情報を読み取る力に課題があります。

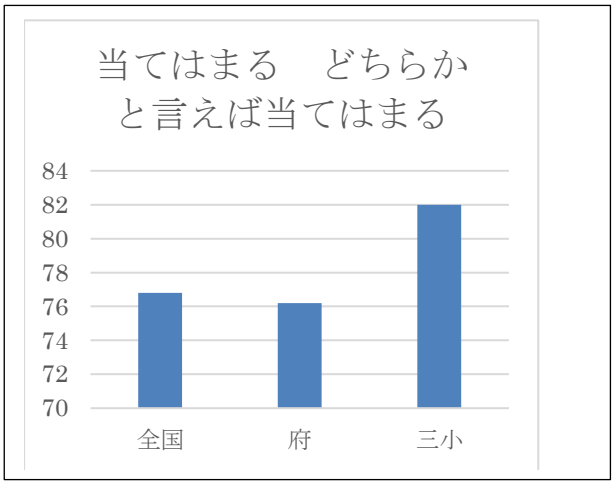
３．児童質問紙調査の結果の概要について（肯定的評価の割合）

〈取組みの成果があらわれていたり、特徴的であると思われる事項について〉

今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。



算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。



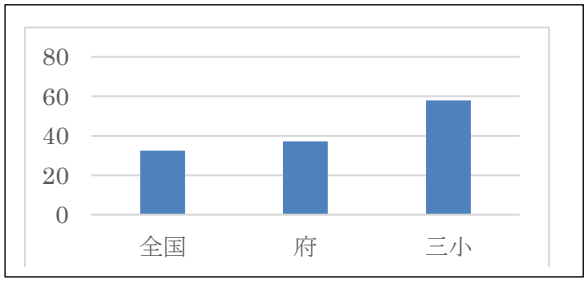
児童質問紙調査全般の傾向として、前向きな回答が多くありました。「最後まで解答を書こうと努力した。」という質問に対して「努力した」と答えた児童の割合は国語では８２％でした。算数、理科においても８０％を超える児童が「努力した」と答えています。

これらの結果には、本校のすべての児童が学習に対して真面目に取り組むことができていることが表れていると考えています。あきらめずに最後まで努力することを実践できており、この学習に向かう姿勢は今後の学力向上につながっていくと考えています。

「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。」という質問に対して「当てはまる・どちらかと言えば当てはまる」と回答している児童の割合も８０％を超えています。これは、昨年度の本校のテーマであった「どの子も分かる算数の１時間～読解力の育成と文章題の解決を生かして～」の取組みの成果だと考えています。問題を一つの方法で解くことで終えるのではなく、様々な方法を考えていくことに取り組んできました。今後も、教員や児童の中で合言葉にしている「いつでも　かんたんに　べんりに」を大切にこれからの取組みを進めていきます。

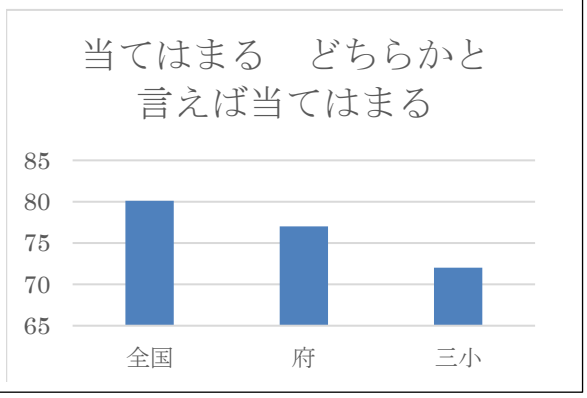
〈今後に向けて、課題と思われる事項について〉

普段（月曜日から金曜日）、１日当たり２時間以上携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴をしている。（学習やゲームをする時間は除く）



６０％近い児童が平日に２時間以上 SNS や動画を視聴していると答えています。これは全国の状況と比べても高い割合を示しています。また、４時間以上視聴していると答えている割合は３０％を超えています。SNS や動画を視聴する時間の長さと学力には相関関係があるようです。生活のリズムを整えていく面からもタブレット端末の活用方法について、今後も引き続き、啓発を進めていきます。学校と家庭が連携して取組みを進めていきたいと考えています。

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。



学校としては、新型コロナウイルス感染症対策を施しながら話し合い活動を進めてきました、しかし、児童は十分ではないと感じています。話し合うことで自分の考えを深めることができます。今年度より「伝える力を向上させる授業づくり～音読により内容を正確に読み取り理解を深め、わかったことや自分の考えを伝える力を高める～」を研究テーマとした取組みを進めております。今後も、これらの結果を踏まえ、新型コロナウイルス感染症対策も大切にしながら学習に取り組んでいきます。

４．成果と課題を踏まえた今後の取組みについて

（１）音読を取り入れた授業づくり

今年度は、「伝える力を向上させる授業づくり～音読により正確に読み取り、理解を深め、わかったことや自分の考えを伝える力を高める～」をテーマのもと、児童の言語感覚を高め、読解力をつける取組みを進めています。音読を進めることで、児童が語彙力を高め、自分の意見をもち、自分のわかったことや伝える力を向上させられるよう授業づくりを工夫・改善し実践していきます。

（２）教員の指導力向上

三小デザインとして、授業の構成を考える視点（構造化・視覚化・共有化）をもつ授業や、授業におけるナチュラルサポートがどうあるべきかを考え、児童の個別最適な学びにつなげられるよう、教員の授業力向上に努めています。児童は、無解答率が低いなど粘り強く取り組むことができます。児童の主体的な学びにつながるよう全教員で認識し、取り組んでいきます。

（３）全教科における言語活動の充実

「ペアトーク」、「グループワーク」、「全体での話し合い」などを全ての教科において、新型コロナウイルス感染症対策を十分に取ったうえで、実施するようにしていきます。児童の協働的な学びにつながるよう、言語活動を取組みの中に多く取り入れることが、重要であることを教員間で共通認識し、効果的な取組みを実践していきます。

（４）タブレット端末の適切な活用

タブレット端末を適切に活用するために、児童が情報及び情報手段を主体的に選択し、活用するための基礎的な力を育む必要性があります。便利な情報収集手段としての活用だけではなく、児童が情報モラルや情報セキュリティについて正しく理解した上で、タブレット端末を活用できるようにします。

５．保護者・児童・生徒のみなさんへ

〈児童のみなさんへ〉

・みなさんは困難なことに直面してもあきらめずに粘り強く取り組むことができています。また、課題解決に関して、ひとつの方法だけでなく他にも方法がないのか自ら考え、行動に移す力も持っています。これらの姿勢が、１～５年生から憧れられる最高学年として活躍してくれている要因のひとつだと感じています。

・学習面でも、難しい問題に対して一生懸命に取り組めています。今後、問題文だけではなく、資料や図からも必要な事柄を読み取り整理する力をつけていってほしいと思っています。このために、音読やグループでの話し合い活動、そして自分の意見を発表することにも積極的に取り組んでいきましょう。

〈保護者のみなさまへ〉

・本校の児童は、難しい問題に対しても前向きに取り組むことができています。これは、学校の指導だけで定着するものではありません。ご家庭での日ごろからの声かけなどのご支援をしていただいているおかげだと考えております。児童一人ひとりがタブレット端末を活用して学習を進めていく姿も当たり前の風景となりました。子どもたちが ICT 機器の利用に慣れていくことは喜ばしいことですが、一方で、スマートフォンなどでの SNS や動画の視聴時間の長さが気になるところです。学校では今後も啓発や指導を続けていきますが、ご家庭でも声かけ等、ご協力をお願いいたします。

・今回の結果から、子どもたちの前向きな気持ちやまじめに物事に取り組める力が十分に備わっていることが明らかになりました。これからも児童の自分を大切にする気持ちや周りの人を大切にする気持ちを伸ばしていけるよう、学校でも取組みを進めていきます。ご家庭のご支援、ご協力も引き続きお願いいたします。